

特集

徳川光圀による日本初の学術調査から330年

健康
おたわら塾

子育て

健康 福祉
年金 国保

税

暮らし

文化・教養

スポーツ

産業・雇用

教育

イベント

地域の
ひろば

スナック
おたわら



■大田原の古墳、「侍塚古墳」

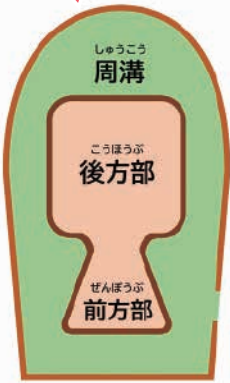
大田原市湯津上に所在する侍塚古墳は、那須地域を代表する**前方後方墳**です。上侍塚古墳・下侍塚古墳の2基を合わせて、「侍塚古墳」として国指定史跡に指定されています。

今からおよそ1700年前、大きな墳丘を持つ古墳が全国的につくられるようになり、那須でも古い時期に上・下侍塚古墳がつくられました。古墳時代の当時の那須地域を広く治めた権力者の墓であると考えられ、これまでの研究から下侍塚古墳は4世紀中頃、上侍塚古墳は4世紀後半に築造されたと考えられています。

また、この侍塚古墳は、江戸時代に日本で初めての発掘調査が行われた舞台でもあります。同じく湯津上に所在する国宝・**那須国造碑**の発見をきっかけとして、元禄5年(1692)、「水戸黄門」でも知られる第2代水戸藩主 徳川光圀の命で、「助さん」こと佐々介三郎宗淳、馬頭の庄屋であった大金重貞によって、日本で初めての学術発掘調査が行われました。調査後は、地域の方々に守られ、多くの人に愛されながら、今日までその姿を残してきました。

令和3年には、任意団体により光圀公没後320年、侍塚発掘より330年を迎えること

かたちがポイント!



古代那須地域の特徴的な形である前方後方墳

■「日本で一番美しい古墳」

下侍塚古墳が「日本で一番美しい古墳」と称されていることはご存知でしょうか。耳にしたことがある方も多いかもしれません。この「日本で一番美しい」というのは、実は全国規模で有名なことなのです。

日本の代表的な考古学者、古墳研究の権威である同志社大学名誉教授森浩一氏(大阪府堺市出身)は、昭和40年(1965)発刊『古墳の発掘』という本の中で、次のように侍塚古墳を紹介しています。昭和39年(1964)に湯津上に古墳を見学に訪れたとき、

「私はこれまで天皇陵をも含めて多くの古墳を見てきたが、そのなかでいちばん美しい古墳を一つえらべといわれたら即座に下侍塚と答えよう。上侍塚もよく保護されているが、付近の人たちによって毎年、下草が刈りこまれている下侍塚こそ、日本の古墳の白眉である。光圀の配慮はこんにちも継承されている。」

これを受け、これまで多くの歴史学者や考古学者が侍塚古墳を訪れ、周辺が整備されてからは一般の方も見学できるようになりました。その形はさることながら、たくさんの方々によって守り伝えられる様相も含めて、日本一美しいと称されたのです。

なぜ「日本で初めての発掘調査」なの？

「日本考古学」の始まりについては、一般的に明治10年(1877)に、アメリカの動物学者であったエドワード・モース博士が来日し、大森貝塚(東京都品川区)を発見・調査を行ったのが、日本近代考古学のあけぼのとされています。しかし、それよりはるか昔にさかのぼる江戸時代に、この湯津上の地で、日本初の学術発掘調査が行われたのです。

大田原市湯津上に所在する国宝・那須国造碑は、那須国から那須評(郡)への社会的組織の変換と、那須国造であった**那須直韋提**がそれに伴い、地方官としての役職である評督に任命されたことについて刻まれた石碑です。この石碑自体が、律令期の古代那須の社会的変動を文字として確認でき、その製作にも渡来人の影響を色濃く表す非常に貴重な資料です。そしてこの石碑がきっかけとなり、日本初の学術発掘調査が行われることになりました。



笠石神社に建立された「日本考古学発祥の地」碑

西暦700年頃に建立された那須国造碑は、古文書によればいつしか忘れられ、草むらに倒れていました。それが延宝4年(1676)に発見され、当時の那須郡武茂郷(現在の那珂川町馬頭)の庄屋であった**大金重貞**によって書物『那須記』

にまとめられ、当時『大日本史』の編さんに取り組んでいた**徳川光圀**の知るところとなりました。

光圀は、那須国造碑を墓碑であると考え、古碑の主を解明するために近くにあつた上・下侍塚古墳の発掘に着手しました。発掘調査は光圀の命のもと、佐々介三郎宗淳と大金重貞が綿密な手紙のやりとりによつて計画・運営を行い、重貞が現地指揮をとりました。発掘調査の結果、銅鏡や管玉、鉄刀や鉄製品など多くの副葬品が見つかりました。

徳川光圀は、発掘調査自体は直接確認しておらず、周辺の史跡整備が完了した後、湯津上来訪しました。そのため、離れた光圀に発掘調査の状況や遺物を知らせるために水戸から絵師を派遣し、報告書を作成しました。光圀に提出されたと考えられるその原本は、現在は確認できませんが、**大金重貞**がその報告書を書き写したものが、『湯津神村車塚御修理』として伝わっています。ここには、出土遺物を発掘調査の状況とともに絵図として残し、遺物は保護のために松の木箱に入れて埋め戻し、墳丘を復元し、松を植えさせて景観整備を行ったことが記述されています。同時に、発掘調査の契機となった石碑も碑堂を建立させて管理するなど、周辺整備も行っています。

那須国造碑の碑主解明のための調査、侍塚古墳の発掘調査と出土遺物を記した報告書の作成、墳丘の復旧と松の植樹による景観・史跡の整備という、一連の発掘事業やそのきっかけとなった石碑の保存施設の整備は、現代の埋蔵文化財保護の基礎であり理想の形でもあります。これらが行われたことを裏付ける資料と舞台となった遺跡が今も残されていることが、ここが「日本考古学発祥の地」であることを裏付けているのです。



発掘調査が始まった上侍塚古墳

新たな発掘調査が始まりました

令和3年度から、栃木県事業「いにしえのとちぎ発見どき土器わく湧くプロジェクト」として侍塚古墳の発掘調査が始まりました。航空レーザー測量や地中レーダーなどを駆使し、上侍塚古墳の周溝部の調査が行われました。発掘調査は5か年の計画で行われる予定で、当館でもその情報を随時紹介していく予定です。

また、10月1日からは徳川光圀による日本初の学術発掘調査より330年の節目となる今年を記念して、当館で**特別展「日本考古学発祥の地」**を開催する予定です。これからさらなる歴史の解明が期待される侍塚古墳。その歴史を知れば知るほど、日本に誇れる遺跡です。ぜひ、ご来訪ください。

問 那須風土記の丘湯津上資料館 TEL (98) 33322